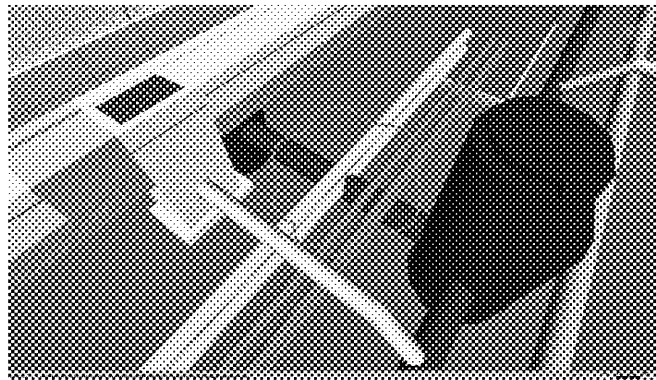


アクセスの「3D設計モデリング」。構造物同士の干渉（中央の丸で囲った箇所）もすぐ把握して対処できる



設計図面から3Dモデル

アクセス、事業開発加速

【川崎】アクセス（川崎市麻生区、森裕次代表取締役）は、建築物の図面データや3次元（3D）測量データを3D画像として手軽に使えるようにする独自技術「A I I S」（アイイス）を生かした新規事業開発を加速させる。建築物などの完成像を可視化する複合現実（MR）画像の作成業務を新しく始めたのに続き、3Dの座標データを使って工事を効率化できる測量システムの開発に取り組む。A I I S関連で3年後の年商5億〜10億円を目指す。

MR画像や測量に応用

A I I Sは設計図面を、3D画像として使 規事業として、これからのデータや、現場で行いやすく編集できる技 ら建てる建築物・構造物の3D測量のデータ 術。これに応用した新物の3Dモデルを、建

設計予定地で撮影した実際の画像に投影し、その場でMR画像を作成する受託サービスを先ごろ始めた。独自の計算式で建築物・構造物の3Dモデルを、誤差数センチという高い位置精度で投影でき、既存の建築物・構造物との干渉や、周囲の景観との相性を事前に確認できる。

続いて3Dモデルの座標データを、全球測位衛星システム（GNSS）の受信端末に直接取り込み、工事を効率化できる測量システムの開発に取り組む。

A I I Sを応用した事業では手はじめに2022年秋から、建築物などを3Dの仮想空間内で模範的に組み立てる「3D設計モデリング」業務を請け負っている。作成した3Dモデルで、構造物同士の干渉といった設計上の問題点も調べる。

A I I Sを生かしてMRなどの分野にも事業を広げ、デジタル変革（DX）の取り組みが遅れている中堅・中小の土木・建築業者などに採用を働きかけることで、生産性改革に貢献する。